

1. 結果 査 報 告 概 要 表

作成日 平成19年 10月18日

【評価実施概要】

事業所番号	3270100716		
法人名	医療法人 正心会		
事業所名	グループホーム 万福の家		
所在地 (電話番号)	島根県松江市下東川津町146番地 (電話)0852-60-1777		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成19年10月12日	評価確定日	平成19年11月13日

【情報提供票より】(平成19年 9月 11日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 13 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 13 人	

(2)建物概要

建物形態	／単独		新築／
建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての		

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷 金			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 50 円
	または1日当たり 1100 円		

(4)利用者の概要(9月11日現在)

利用者人数	18 名	男性 0 名	女性 18 名
要介護1	2 名	要介護2	9 名
要介護3	5 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	1 名
年齢	平均 84.5 歳	最低 73 歳	最高 99 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	松北病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広くて明るいホームには利用者がお気に入りの場所を見つけてくつろいでおられる。職員は理念を基に毎月の目標を毎朝唱和し、内部研修により日々のサービスの向上に取り組んでいる。居室は利用者の馴染みの物、必要な物が多く持ち込まれ、その人らしい楽しみごとを持って生活しており、職員はそれを良く支援している。職員は自分が入りたいホームを目指して可能なところから改善に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	権利の明文化、チームケアのための毎月の職員会議、継続的な内部研修の実施等良く取り組まれているが、車椅子など介護度の進展に伴う退去基準の見直しは行われていない。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	十分な時間をとり、職員も共に評価を行い評価についての理解を深めている。評価の結果だけでなく、改善すべき点は日々改善に向け取り組んでいる。さらなる努力を期待したい。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	グループホームからの報告・行事の案内・意見交換がされている。評価への取り組み状況についても報告や話し合いがなされている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会や行事のために来所の時などに意見を聞くようしている。重要事項説明書に苦情申し立ての記載と外部の相談窓口が記してあるが、周知が十分とは言えないので家族の立場に立って繰り返し説明されるようお願いしたい。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	敬老会、町内の行事を通じて、また場所の提供を通じて地域に貢献していきたいと計画している。また開設来、初めての文化祭も企画されているので今後期待したい。

2. 結果報告書(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時から、利用者及び家族に親しまれるグループホームとしての理念を定めているが、地域住民との交流の下で運営する立場が明確ではない。	<input type="radio"/>	利用者の現状、時代のニーズに応えるため地域住民との交流をどう位置づけるか十分な論議をお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を基に毎月の目標を職員主体で定め、毎朝の申し送り時に確認し唱和している。職員共通の目標とし、日常のケアに活かしている。日々の実践にふさわしくない文書類も見受けられた。	<input type="radio"/>	各種文書を住民にもわかりやすく、利用者の権利擁護の姿勢を明確にして、全体的な見直しをされるよう期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	賛助会員として町内会に入会している。敬老会がちまき作りに参加され、自治会長夫人が手作りの紙芝居をしに來られた。グループホーム側からも働きかけたいと文化祭を企画中。8月に認知症介護を語る集いを実施、2回目を年内に予定している。	<input type="radio"/>	地域活動をグループホームから盛り上げて、地域に貢献できたという思いを実現させていただきたい。認知症介護を語る集いを継続し、認知症ケア向上の推進役となっ ていただきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価を、5月頃から読みやすいように1週間に4、5項目ずつ刻んで、職員とともにまとめていった。職員は気付きを職員会議で言ったり、管理者に言ったり、ノートに書いた。外部評価は職員会議で取り上げ、皆で話し合い、また、運営推進会議で報告し意見を聞き改善につなげている。	<input type="radio"/>	
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回の運営推進会議を実施し、市や地域包括支援センターに出席を依頼し、事業所への理解を得ている。グループホームからの報告・行事の案内・外部評価への取り組み状況などが議題である。	<input type="radio"/>	2ヶ月に1回以上の開催が望ましく、幅広い立場の人から多くの率直な意見を引き出し、改善につなげていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市よりの情報提供により地域交流のきっかけとしている。	○	関係づくりを積極的に行い、問題解決に向けて連携に取り組んでいただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回のお便りで行事の様子と併せて、居室担当者が個々の利用者の様子を手書きで加えている。金銭管理伝票による報告を月1回実施している。変化に対しては電話等で速やかに対応している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や、毎月のお便りなどでも意見を聞いている。家族会、運営推進会議でも聞いている。外部評価で指摘があり、検討中だった物干し場への手すりは家族意見もあり設置した。	○	事業所以外の外部の人に家族が意見・苦情を表せる機会や場があることを家族の立場に立って繰り返し説明していただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の定期異動は実施しておらず、この1年は異動はない。離職による異動がある場合は、利用者・家族への説明・引継ぎに十分配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム職員研修に参加している。希望者が参加しているが休日に行くことが多いので、参加しにくい。2月より計画的にタイトルを決め、毎月順に職員が担当し、内部研修を実施している。	○	日常的に学びの機会が持たれ、内部研修は事業所のバックアップ体制が取られている。外部研修についてもバックアップ体制を取られる事を期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修受講時に同業者職員との交流をしたり、他ホームを訪問するなどしてより良いホーム作りを目指しているが、機会が少ない。来週文化祭を計画しており、案内を以前研修に来られた他のグループホームにも送っている。	○	運営者、施設長、管理者、職員が地域の同業者と交流する機会を積極的に持たれることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居される方は自宅からが多い。入居前にホーム内を案内し見てもらう。家族との話し合いを十分行い、本人の意向・性格・行動などを把握するよう努めている。この1年入居者が1名あったがすぐ馴染まれた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備のときや花の水遣り・洗濯物の干し方など教わっている。曾孫が誕生してお祝いにはほぼ50年ぶりに帽子を編んだ利用者もいて、共に喜び励まして自身の帽子も編まれた。文化祭に出品予定にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者が決まったらその人を中心に生活の中で本人の希望を聞き、プラン、実施につなげている。家族の希望も考慮する。言葉で言い表せない人は日常の会話の中で推察することが多い。またいつもと違う行動に注意したり、こまめな声かけをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	居室担当者を中心に管理者・職員が話し合い、介護計画を作成し、家族にも見てもらっている。本人の現状・希望・家族の考え・他利用者への影響など考慮している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月ごとの見直しである。見直しは家族にも伝える。状況の変化、新たなニーズが発生したときはミーティングと申し送りノートで情報を共有し、必要に応じてプランの見直しをしている。	○	安定しているような利用者の場合も、月に1回程度は、本人や家族の今の意向や状況を確認し、ケア関係者の情報や気付きやアイデアを集めて、見直しが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	契約による医療連携体制により、看護師の確保がある。	○	地域住民や利用者が求める多機能性にどう対応するかさらに検討を重ねられたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接の病院への受診支援はあるが、他の医療機関への受診は家族が付き添う。出来ない場合は外部ヘルパーを頼む。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	車椅子利用になったり重度化のため、対応困難になった場合は契約の解除、終了となることを、入居契約時説明し同意を得ている。本人の状態の変化に合わせて適宜話し合いをしている。	○	利用者と家族が安心してサービスを利用できるように、重度化や終末期に向けて、ホームが対応しうる最大の支援について話し合っていたきたい。
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りを尊重し、言葉遣いでは押し付け強制にならないよう気をつけている。職場内研修でも個人情報について取り上げ、再確認している。外部からの電話での問い合わせにも守秘している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおよその過ごし方はあるが、一人一人の気持ち、ペースを大切にしている。例としては毎日の散歩に出かけたくない人には玄関の東屋で外気にふれていただくなど柔軟に介護している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、片付けに積極的に参加されており、役割・楽しみ・自信・機能の維持につなげている。職員は教わることも多い。昼食は職員も一緒に楽しく食事しており、畑でとれた野菜も食卓の話題となっている。	○	食事を生活支援の柱と位置づけ昼食以外も入居者と職員と一緒に楽しめるよう努力されたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1ユニットが週2日風呂を沸かし、計週4日の入浴を設定している。土日は風呂はない。体調や気分に合わせて気持ちよくゆったり楽しめるよう工夫している。入浴を嫌がる方にはその原因を探り心配をなくし、安心して入っていただけるようしている。	○	本人の希望する日・時間に気持ちよく入浴できる支援を期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人一人の得意なこと楽しみについて情報を共有し、張り合いや喜びのある日々が送れる様工夫している。ピアノやエレクトロンを持ち込んで歌を歌い、絵を描き、菜園作り、調理を楽しむなど良い支援ができています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くにコンビニができたので出かけたり、隣接のデイケアを利用するための外出をしている。誕生月の外出支援で個人個人の行きたい所を聞いても行きたい所がない方もいて、今まで住んでいた家に行きたくて墓参りをして満足されて戻ってこられる。	○	一人ひとりの状況に合わせて日常的な外出を支援できるよう検討頂きたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則として鶴の家、玄関は昼間は施錠しない。施錠されていることで不安になっておられた方が、施錠をやめてから落ち着いた。夕方の入浴時間は目が行き届かないので施錠する。玄関に鍵をかけることの弊害の内部研修を持ち理解を深めた。	○	かなり努力をされているが更なる努力を期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルがあり、職員と全利用者参加で年2回の避難訓練を実施している。施設の鍵は全員が持っており鍵はすぐ開けられる。消火器避難路は確保されている。水、食料、備品の備蓄はない。	○	避難訓練には同一法人の病院との協力のみならず、地域の人々にも働きかけていただきたい。水、食料、備品の3日分の備蓄をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調が悪い方など個別に注意が必要なときは、把握・ケア・記録するが、特に摂取水分量等の記録はしていない。	○	利用者一人一人の栄養摂取総量や、水分量のおおまかな把握があることが望ましい。
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節の花コスモスが活けてあり、前庭にきれいにコスモスなどの季節の花が咲いているの見える。居室からは遠く山々や緑が見える。掃除も行き届いており、収穫されたさつま芋が亀の家玄関に置かれて文化祭のバザーを待っていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は画一的でなく個々の利用者の馴染みの物や好みの物が色々と置かれている。		